

JN-HRD. NET ニュースレター

●『IAEA 原子力エネルギーマネジメントスクール』が開校しました。

原子力発電新規導入国における若手リーダーの育成を目的とし、東大、JAEA、JAIF、JICCがホスト機関を務め、日本で3回目の開催となる原子力エネルギーマネジメントスクールが、平成25年6月9日(月)から6月26日(木)の約3週間開催されています。前半は講義を主に東京大学本郷キャンパス、後半は施設見学を主に茨城県東海村のいばらき量子ビーム研究センター、最後に再び東京へ戻り研修生によるテーマ別グループ討議の成果発表と修了試験というスケジュールで、海外から21名(16カ国、主に東南アジア)、国内は電力会社、原子力機器メーカー、JAEA、JAIFから11名の合計32名(オブザーバー4名を含む)の研修生が参加しています。今年度は主催がIAEAから日本側に移り、より日本の特徴を出したスクールとなりますが、その一つとして施設見学では浜岡原子力発電所を見学し安全対策や緊急時対応について多くのことを学ぶ予定です。また期間中に地元の人々とのふれあいのイベントもあり、将来の世界の原子力リーダーになる参加者にとっては原子力に関する知識は勿論、仲間意識も生まれて有意義な3週間となることでしょう。

●今年度各分科会がスタートしました。

*『実務者段階人材育成分科会』(四国電力川西主査)

5月17日に第一回分科会が開催され、規制委員会との情報交換を引き続き実施する事が決まった他、原子力発電所過酷事故に対する人材育成プログラムについてどう整理するかが議論され、原子力発電コア技術に関して具体的な教育訓練内容について引き続き検討することや、若手討論会は分科会として支援する事が確認されました。

*『国内人材国際化分科会』(原子力機構山下主査)

5月20日に第一回分科会が開催され、6月9日より開催されるマネジメントスクールや年末開催予定の若エネ研国際セミナー、及び原子力機構国際人養成コースについての計画の説明の他、国際原子力人材の具体的指標について議論されました。

*『高等教育分科会』(東工大井頭主査)

5月30日に第一回分科会が開催され、今年度の活動方針等について議論が交わされました。この中で今年度の研修検索システム(データベース)改造内容の説明があり、完成すれば今後の高等教育関連活動マップ化に大いに活かせることが確認された他、動向調査は調査対象大学を絞って進めてはどうかといった提案や、学生対象施設見学会の紹介がありました。

*なお昨年発足した「原子力人材育成ネットワークの今後の進め方検討 W.G」と「人材育成戦略諮問委員会」の二つのサブワーキンググループについては今年度も引き続き活動を予定しており、現在活動内容の検討を事務局にて開始しております。

●未来を担う原子力施設見学会

昨年に引き続き原子力人材育成ネットワークでは将来の進路を決めていない原子力学科以外の学生を主な対象とし、原子力技術に理解を深め魅力を感じてもらうことを目標とした日帰り原子力施設見学のバスツアーを企画しました。今回は関西でも開催してほしいという声にこたえ、関東編と関西編を企画しました。

企画内容（予定）

① 関西地区

日時 9月4日(木)

行程 集合 近畿大学（近鉄大阪線 長瀬駅から徒歩10分） 9時半

午前 近畿大学原子炉

昼食後バスにて三菱重工へ移動

午後 三菱重工神戸造船所見学

見学終了後バスにて三ノ宮駅へ 18時頃解散

② 関東地区

日時 9月8日(月)

行程 集合 JR 稲毛駅 9時

午前 放医研 HIMAC、PET

昼食後バスにて東芝へ移動

午後 東芝 京浜事業所

見学終了後バスにて川崎駅へ 18時頃解散

詳細は6月下旬に案内予定です。